

平成 26 年度 企画展

# アーカイブズの世界 紙資料を修復する

会期 / 平成 26 年 6 月 17 日（火）～7 月 16 日（水）

場所 / 鳥取県立公文書館（展示コーナーほか）



修復を施した漁場図

明治末から大正初期

公文書を初めとする大量の紙資料を保存する公文書館ですが、これらの資料には紙の破れや汚れ、酸性化に伴う劣化など、様々な問題があります。貴重な資料を後世に残していくためには、紙の性質に合った適切な修復を施すことが必要です。公文書館では、これらの紙資料を、歴史的価値、劣化の度合い、利用頻度を勘案して、年次計画で修復しています。また、軽易な破損のある紙資料については、職員が技術を学んで、日々修復を行っています。

本展は、これまでに修復の終わった貴重資料（絵図や写真資料を含む）をご覧いただくとともに、修復によって見えてきた歴史をご紹介します。また、西伯郡南部町で文化財修復に取り組まれる秦博志さんのご協力を得て、修復作業の裏側をご紹介します。

## 紙資料の劣化と残す意義

紙は、時間の経過とともに劣化します。その原因には様々なものがあります。1980年代頃からは指摘されるようになった酸性紙の問題や紫外線のような光の影響、温度や湿度の変化による劣化、虫やカビによる被害、水害・火災等による破損や汚損、不注意な取り扱いに伴う破損等々です。

このような原因を取り除いて劣化を防ぐことが重要ですが、すでに劣化しているものは、紙の性質に合わせた修復を施す必要があります。

当館では、原本保存が必要とされる歴史的価値、劣化の度合い、利用頻度等を勘案して、年次計画で専門業者による補修を行っています。とりわけ当館が所蔵する公文書は、書籍類と違って1点しか存在しません。鳥取県政の根拠ともいえるべき記録類を残していくことは、当館の責務といえます。



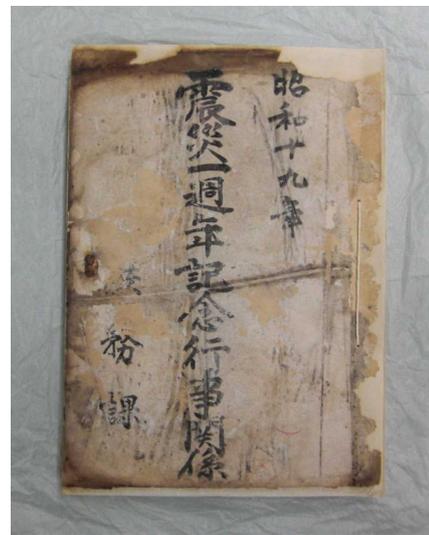
酸性劣化した簿冊

酸性劣化が著しく進んだ事例。全体的に紙が茶色に変色し、端はひび割れている。また、酸性劣化のほかにネズミの食害（紙上部の欠損部分）やカビによるフォクシング（茶褐色のシミ）、文字消えも確認される。

## 鳥取大震災の新資料

鳥取大震災は、戦時下の昭和18年（1943）9月10日の夕方に発生したマグニチュード7.2（震度6）の地震です。『鳥取県震災小誌』によると、この地震で、死者1210名、負傷者3860名、全壊家屋13295戸、半壊家屋14110戸、全焼287戸、半焼10戸、被害総額は、1億6千万円（鉄道、電信、電話、水道、電気等を含まず）に及んでいます。

今回紹介する簿冊（公文書綴り）は2冊。水濡れによる劣化と固着が著しく、修復によりようやく中を見ることが可能となりました。この内の一冊『昭和十八年三月 震災関係 起債関係綴』は、県の財政当局が作成した起債関係の簿冊です。3月の地震の被害は軽微であった、というのが従来の評価でしたが、かなりの被害が生じていたことがこの簿冊から分かってきました。右の簿冊『震災一週年記念行事関係』では、時局の悪化で実現には至りませんでしたでしたが、震災記念碑の建立や鳥取市震災誌の編さんが計画されていたことが分かりました。従来の刊行物では分からなかった事実です。



『震災一週年記念行事関係』

水濡れによる劣化で消滅寸前であったが、修復を経て文字情報の8割程度の判読が可能となった。

## 漁場図

漁場図は、『漁業権漁場図』と題する簿冊（6分冊）に無秩序に納められていた図面類です。明治26（1893）年以降に作成されたことになっていますが、年代特定のできない図面も多くみられます。

当館が所蔵する水産業関係の簿冊は限られており、その意味でも貴重な図面類といえます。修復は、破れや劣化のあるものを裏打ちにより補修しましたが、県内の海岸線を描いた横長に切り継がれた図面には、簡易の軸装を施しました。

右の「**区画漁業第二種魚類養殖業漁場見取図**」は、鳥取砂丘に近い千代川の中洲で行われた養殖業の許可申請書に添付された図面です。『漁業権免許原簿』によると、明治45（1912）年から昭和7（1932）年までの20年間、イナ（ボラの幼魚）の養殖が行われていました。その後、養殖場は埋め立てられ、現在は浜坂八丁目の住宅地となっています。

## たたら関係文書

和紙に墨書きされた文書は、長期保存が可能ですが、水火の災には極めて弱いところがあります。

**山柘武久家**（倉吉市下田中町）に保存されてきたたたらに関する文書は、資料を守ることの困難さを示す事例です。

たたらといえば、日野郡が連想されますが、同家文書は、県中部に伝わるたたら関係の文書として、一級の価値を持ちます。『下田中集録史』（1987年刊）は、鉄穴流しによる濁水に業を煮やした下田中村の住人が大挙して大谷村（現三朝町）を襲撃した一件など、同家文書を豊富に紹介しています。

しかし、平成17年に公文書館が確認した際には、破損が進み触れることも出来ない状態になっていました。同家の蔵で発生した雨漏りが原因と考えられます。後世に伝えるべき文書であっても、復元精度とコスト面を考えると、すべての文書を救済するのは困難となります。



「区画漁業第二種魚類養殖業漁場見取図」

赤で囲んだ部分が、養殖場で「養殖出願水面」と墨書きされている。下の図は、現在の地図に養殖場を落としたもので、現在は浜坂八丁目の住宅地となっている。



山柘武久家文書

破損の主因は水濡れであるが、文書の上下にはかび・スス等による黒色化も見られる。最大の問題は、和紙の粉状劣化であり、触れるだけで破損が進む状態にある。文字情報どころか、文書点数を確認することも困難である。上の茶封筒には数点の文書が入っていたが、修復（リーフキャスト）により、たたら関係文書であることが確認された。

## ガラス乾板の修復

写真に利用されるガラス板には、湿板と乾板の二種類があります。右の写真は乾板で、光に感光する臭化銀ゼラチン乳剤をガラス板に塗布し乾燥させて使用します。写真フィルムが登場すると、天文学等の専門的な分野を除き市場から姿を消します。

ガラス乾板の弱点は、右上の写真のように割れを伴う破損が発生することにあります。しかし、近年はデジタル技術による画像処理により、もとの姿が復元できるようになりました。

下の写真は、ガラス乾板から紙焼きしたものです。破損部分が白くなっているのが分かります。さらに画像処理の精度を上げれば、肉眼では判別がつかなくなります。

写っていた画像は、明治 30（1897）年に大阪より転営した歩兵四十連隊の軍事演習の様子です。破損部分に近い海上にあるのは鳥ヶ島です。



### 問答集 そこが知りたい！！ **アーカイブズ** …

問：展示テーマにあるアーカイブズって何ですか。

答：**アーカイブズ (Archives)** という言葉は、「archive」の複数形で、公文書等を含めた記録資料及びその保管場所を指します。

問：よくわからないなあ。

答：個人または組織がその活動の過程で作成、需要、収集した記録のうち、**継続的価値を持つ**ものとして保存されているもの。またそれらの記録を管理、保存し利用に供する公文書館等の機関や施設のことです。

問：継続的価値を持つ記録と言われてもねえ、まあ、自分には関係ないね！

答：でも、平成 19（2007）年に問題化した年金記録や薬害肝炎患者リストの放置などの問題は、**継続的価値を持つ**記録を適切に保存していなかったことが主たる原因です。

また、平成 23 年に発生した東日本大震災では、役場等が被災し、戸籍や土地台帳といった最も大切な文書が大量に流失、破損して問題となりました。アーカイブズは、私たちの人権や生命を守る手段として、しっかり守っていかなければなりません。

◆◇ 取材や資料借用等にあたり、以下の方々に御協力をいただきました。（敬称略、順不同）  
秦 博志、油浅郁夫、西尾光夫、磯見一男、米村 進、生越日出夫、山栴恒子、鳥取県立博物館

平成 26（2014）年 6 月 17 日 発行

編集・発行 鳥取県立公文書館 電話 0857-26-8160 ファクシミリ 0857-22-3977

ホームページ <http://www.pref.tottori.lg.jp>